



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北大法学論集, 15(4), 118-121
Issue Date	1965-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/16056
Type	other
File Information	15(4)_p118-121.pdf



雜報

北海道大学法学部法学会記事

(昭和四〇年一月〜昭和四〇年三月)

一四、一月二日(金)午後一時三〇分―五時

○「政治的態度の測定

―その方法と予備調査・北大法経学生にそくして―

報告者 阿部 四郎

オスグッドやアイゼンクの測定方法の利用例、および調査

結果の一部が発表され、その意義や解釈の仕方について討

論。

一五、二月二日(金)午後一時三〇分―五時

○「日本の近代化と伝統 ―福沢諭吉の場合―

Carmen Blacker, the Japanese Enlightenment, 1964,

の紹介」

報告者 松沢 弘陽

独立・進歩の啓蒙思想家福沢の思想体系の全般にわたり、

その核心的、窮局的部分の本質が古い儒教思想に深く滲透さ

れていたと解するブラッカーの分析・評価をめぐり、ライシ

ヤワの反論等につれつつ、議論を展開。

一六、二月二六日(金)午後一時三〇分―五時

○最近の家族の問題

改憲論をめぐって 報告者 熊本 信夫

財産上の問題 〃 川井 健

身分上の問題 〃 山島 正男

夫婦・親子・扶養・相続等の問題につき、民法学が直面している最新の問題状況が具体的に詳細に説明せられた。改憲論者の家族保護の主張等が、古色蒼然たるイデオロギー論であることは別としても、変転する現実に適合しえないはずの議論であることを改めて教えられた。

一七、三月二日(金)午後一時三〇分―五時

○「フランスにおける裁判官の独立」

報告者 小山 昇

フランスの裁判官の「不可動性」を中心とする詳細・明快な紹介にもかかわらず(むしろそれによって)、裁判官の独立を守るもの・条件は何かという根本問題の「迷宮的狀況」がはつきりした。法律制度論をこえる、政治学・憲法哲学的問題が指摘された。わが国の裁判官についても若干懇談。

一八、三月二六日(金)午後一時三〇分―五時三〇分

○「福祉国家の実態と展望」

行政法論争 報告者 今村 成和

社会福祉 〃 石川 恒夫

いわゆる福祉国家における行政法の特質をめぐる渡辺・山田論争・有倉批評の紹介と、今村教授自身の示唆にとむ見解が述べられた。また社会福祉(学)の対象や、生活保護を中

心とする実態および立法の傾向について詳しい解説がなされた。懇談予定の官僚の問題は、時間ぎれでふれえず。

*

右研究会後、総会。旧年度会計報告および幹事(深瀬)留任が承認され、新年度運営方針を討議。八月および冬休暇中を除き、原則として月二回の例会を行ない、各専攻部門および海外諸国の事情について最新の知識を交流する耳学問の場として活用してゆく方針が、採択された。終了後懇親会が続き、七時半に及び一応散会。

北海道大学法学部民事法研究会記事

(昭和四〇年一月〜昭和四〇年三月)

一六、一月二九日(金) 最高裁判所判例研究

○ 他人所有地の立木についての取得時効の成否(最高裁判所判例集第一七卷第一二号一六九六頁) 後藤 徹

○ 外国人間の離婚訴訟の国際的裁判管轄(最高裁判所判例集第一八卷第三号四八六頁) 欧 龍 雲

○ 不法行為により身体の傷害を受けた者の父母が自己の権利として慰藉料請求権を有するとされた事例(最高裁判所判例集第一八卷第一号一一一頁) 半田 正夫

○ 親子関係の存否を前提とする法律関係に関する紛争処理の手続(最高裁判所判例集第一八卷第三号四七三頁)

石川 恒夫

一七、二月五日(金) 最高裁判所判例研究

○ 国家公務員等退職手当法に基づく退職金請求権はこれを譲渡することができるとした事例(判例時報三六四号一〇頁) 佐保 雅子

○ 国鉄とその職員との関係は私法関係(判例時報三六四号一四頁) 今村 成和

(右二件は公法研究会と合同)

○ 売主および相続人の共有不動産が売買の目的とされた場合当該相続人は当該売買契約における売買契約における売主の義務の履行を拒みうるか(最高裁判所判例集第一七卷第一二二号一八五四頁) 神田 孝夫

○ 任意に支払われた法定制限超過の利息・損害金は残存元本に充当されるか(判例時報三九〇号八頁) 五十嵐 清

一八、二月一九日(金) 最高裁判所判例研究
○ 一、停止条件の成就を故意に妨げたとして報酬請求権が認められた事例。
二、停止条件の成就を故意に妨げた場合と不法行為の成立

(最高裁判所判例集第一八卷第一号九九頁)

後藤 徹

○ 譲渡担保の目的物件をもってなされた代物弁済は否認の対象となるか(最高裁判所判例集第一八卷第五号八八七頁)

渡辺 正昭

○ 不動産の遺贈と民法第一七七条の第三者（最高裁判所判例集第一八卷第三号四三七頁）

神田 正夫

北海道大学法学部公法研究会記事

（昭和四〇年一月〜昭和四〇年三月）

○ 出張所長が商法第四二条の表見支配人にあたりとされた事例（最高裁判所判例集第一八卷第三号四五八頁）

藤原 雄三

二、一月二十九日（金）判例研究

○ 法人の所得金額の推計（法人税法三二条二項）を合理的でないとした例（大阪地裁昭和三八年一月二日判例時報三五九号一八頁）

鳥居 信之

一九、三月五日（金）最高裁判所判例研究

○ 前月中の過払給与を後の月分の給与から減額することは違法（判例時報三九四号五九九頁）

佐保 雅子

○ 買取計画樹立後一年経過後に買取令書を交付してした買取処分効力ほか（京都地裁昭和三八年一月二八日判例時報三六〇号一五頁）

深瀬 忠一

一三、二月五日（金）判例研究

（公法・民法合同研究会）

○ 自動車損害賠償保障法第三条による保有者に対する損害賠償請求権と同法第一六条第一項による保険会社に対する損害賠償額支払請求権との関係（最高裁判所判例集第一八卷第四号五八三頁）

藤原 雄三

○ 一、二筆の土地を一括して賃借した場合に一筆の土地についての用方違反によって二筆の土地全部の賃貸借契約を解除できるとされた事例。

石田 満

○ 国鉄と職員との関係は私法関係（東京地裁昭和三八年一月二十九日判例時報三六四号一四頁）

今村 成和

二、堅固建物への改築が消防署の命によつた場合でも借地の用方違反の違法性は阻却されないと判断された事例（最高裁判所判例集第一八卷第五号八〇六頁）

藪 重夫

一四、二月十九日（金）判例研究

○ 「不正者の天国」出版による免職処分について（東京地裁昭和三八年二月二〇日判例時報三五九号六頁）

熊本 信夫

○ 参議院議員定数の選挙区への配分と憲法一四条（最高裁判昭和三九年二月五日判例時報三六一号一八頁）

小岩 洋

一五、三月一日(月) 公法研究

○ 憲法事実と司法審査(清宮退職論文集における芦部論文「合憲性の推定と司法審査」の展開、特に憲庭事件訴訟を中心に) 深瀬 忠 一

北海道大学法学部刑事法研究会記事

(昭和四〇年一月〜昭和四〇年三月)

一五、二月三日(土)

○ 責任能力の判断と鑑定

—最近の二、三の判例にちなんで—

小岩 洋
林 茂 保

○ 賭博罪の諸問題

—学説・判例上の問題点をめぐって—

小 暮 得 雄

一六、二月三日(火)

○ 一、公職選挙法第二五二条にいう選挙権被選挙権停止の要件、基準は不明確か。
二、公職選挙法第二三九条第一号の罪の構成要件である同法第一二九条にいう選挙運動の意義は不明確か。(最高裁昭和三八年一〇月二二日、最判一七卷九号一七五五頁)

鳥 居 信 之

○ 刑法上の直系尊属にあたらなるとされた事例(最高裁昭和三八年二月二四日最判一七卷一二号二五三七頁)

三八年二月二四日最判一七卷一二号二五三七頁)

柄内 昌 子

一七、三月二〇日(土) 刑事法研究会

○ 自動車運転者甲は、同僚乙が運転資格なく、ようやく運転できる程度の技能しか有せず、かつ、酒気を帯びている事情を知りながら、同人に自己の運転管理する自動車の運転を委ね(A)、自らは助手席にありながら乙に適切な運転上の指導助言を与えることなく仮睡していた(B)ため、乙の運転操作の拙劣に起因する傷害事故を招来した。甲に自動車運転者としての業務上の注意義務違反を認め得るか。(参考判例、大審院昭和二三、一二、一一判、新聞四二二八号一六頁、大阪地裁昭和三五、五、四判、判時二二六号四三頁等)

半 谷 恭 一

北海道大学法学部政治学研究会記事

(昭和四〇年一月〜昭和四〇年三月)

六、一月二六日(土)

○ 中ソ論争とわが国の論壇 百 瀬 宏

七、二月二五日(木)

○ 雑誌論文論評「革新とは何か」(中央公論二月号)